

北秋田市アウトドアグラウンドデザイン

令和 6 年 3 月

秋田県北秋田市

－目次－

第1章 北秋田市アウトドアグラウンドデザイン策定の背景と目的	・ ・ ・ ・ ・ P1
1.1 はじめに	
1.2 アフターコロナのアウトドアツーリズム	
1.3 総合アウトドア企業・モンベルとの連携について	
1.4 グラウンドデザインの対象範囲	
第2章 北秋田市におけるアウトドアツーリズムの現状と課題	・ ・ ・ ・ ・ P5
2.1 地域資源概要と観光の現況	
2.2 自然資源の現状と課題	
2.3 北秋田市におけるアウトドアツーリズムの課題の整理	
第3章 アウトドアグラウンドデザインの基本方針と施策	・ ・ ・ ・ ・ P 25
3.1 アウトドアグラウンドデザインの基本方針	
3.2 アウトドアグラウンドデザインの施策	
第4章 施策 アウトドアフィールドの整備	・ ・ ・ ・ ・ P 27
4.1 フィールド整備の概要	
4.2 トレッキング環境の整備	
4.3 サイクリングフィールドの整備	
4.4 パドルスポーツ環境の整備	
4.5 キャンプ環境の整備	
第5章 施策 アウトドア・アクティビティの受け入れ態勢の整備	・ ・ ・ ・ P 49
5.1 ビジターセンター機能の整備	
5.2 ガイド人材の育成と運営体制の整備	
5.3 北秋田市におけるガイド人材育成とアウトドアイベント造成の取り組み	
第6章 施策 アウトドア拠点施設の整備	・ ・ ・ ・ ・ P 59
6.1 北秋田市におけるアウトドア拠点施設整備の目的	
6.2 アウトドア拠点施設整備の方向性	
第7章 施策 広域連携によるアウトドアツーリズムの推進	・ ・ ・ ・ ・ P 64
7.1 ジャパンエコトラックの推進	
第8章 施策 アウトドアツーリズムに関する情報発信の強化	・ ・ ・ ・ ・ P 75
8.1 モンベルとの連携によるプロモーション展開	

第1章 北秋田市アウトドアグランドデザイン策定の背景と目的

1.1 はじめに

秋田県北部に位置する北秋田市は、市の南部にある森吉山を中心に豊かな自然環境に恵まれた地域です。市のシンボルである森吉山は高山植物や樹氷の鑑賞地として知られており、多くの登山者や観光客が訪れます。森吉山山麓には希少な生き物も多く生息する原生林が広がり、その中に美しい滝や溪谷が点在しています。

さらに森吉山山麓の阿仁地域が発祥と言われる狩猟文化であるマタギ文化や、2021年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一部として世界遺産に登録された伊勢堂岱遺跡など、文化資源も豊富な地域です。

また、本市の北部には大館能代空港があり、鉄道や国道も交わる立地から秋田県北部の交通の要衝にもなっています。

その一方、本市を訪れる観光客の数は減少傾向にあり、豊富な地域資源を観光資源として十分には生かしていない状況です。近年、地域独自の自然や文化に触れられる体験型・滞在型の観光の人気が高まっており、本市においても地域資源を活用した北秋田市ならではのエコツーリズムの促進が課題となっています。加えて、地域住民の生活の質の向上に、より積極的に地域の自然資源を活用していくことも求められています。

以上の背景を踏まえ、北秋田市が有する自然環境と地域資源を対象としたアウトドア・アクティビティによる地域経済の活性化と地域住民の健康増進等を図るために、アウトドアに係るグランドデザインを策定します。

1.2 アフターコロナのアウトドアツーリズム

新型コロナウイルス（COVID-19）は、2019年末に最初の症例が確認されて以降、世界各地で感染が拡大しました。日本国内の社会、経済にも大きな影響があり、観光分野においても、訪日外国人の入国制限や感染リスクの低い生活様式への転換等の影響で、インバウンド、国内旅行者とも大きく減少しました。

そのような状況下で、人々の観光や生活のスタイルにも変化が生まれました。感染リスクを考慮した「少人数」、「アウトドア環境」での観光が志向され、自然豊かな地域に注目が集まり、さらにはテレワークやワーケーションといった働き方の変化も起き、都市部から自然豊かな地方への人の移動も促されました。

2023年5月に感染症法の分類が引き下げられ、現在は日本国内もアフターコロナと言える社会状況となっています。出入国の制限や国内の行動制限などは無くなり、インバウンドや国内旅行者の数も新型コロナウイルス流行前の水準に回復しています。

しかし、アフターコロナにおいても、引き続き、自然環境下でのアウトドアツーリズムは旅行者からの支持を集めることが期待されています。

コロナ禍をきっかけにキャンプやサイクリングなどのアクティビティを始めた方も多く、愛好家の裾野が広がっています。これらのアクティビティに関する情報やサービスも増えており、今後も自然豊かな地域でのアウトドア・アクティビティを目的にした観光へのニーズは縮小しないと予想されます。

需要が回復したインバウンドにおいても、都市部でのショッピングや有名スポットの見物といった観光から、地域特有の文化や自然に触れる体験型観光に関心が移ってきています。特定の観光地への旅行者の集中も問題となっており、旅行先に地方を選ぶ傾向はより強まると考えられます。

コロナ禍での移動制限は、国内に約2,000万人いるといわれるアウトバウンド層が国内の旅に目を向ける機会にもなっており、今後、自然豊かな地域への旅やアウトドアツーリズムへの関心はますます高まっていくことが期待されます。

アウトドアランドデザインにおいても、こうした観光スタイルの変化を見据え、アウトドア・アクティビティによる体験型観光の検討や提案を行います。



1.3 総合アウトドア企業・モンベルとの連携について

本市では、総合アウトドア企業である株式会社モンベルと2023年2月に包括協定を結んでいます。協定では、北秋田市の自然を生かしたアウトドア・アクティビティの推進による地域の活性化及び市民生活の向上を目的とし、下記の7つの事項について連携・協力するものとしています。これら7つの事項は、アウトドア活動に期待できる効果であり、アウトドアランドデザインにおいても、これら7つを意識しています。

【北秋田市と株式会社モンベルの包括協定締結事項】

- (1) 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関する事
- (2) 子どもたちの生き抜いていく力の育成に関する事
- (3) 自然体験の促進による健康増進に関する事
- (4) 防災意識と災害対応力の向上に関する事
- (5) 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関する事
- (6) 農林水産業の活性化に関する事
- (7) 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関する事

また、北秋田市は2022年12月より、「モンベルフレンドエリア フレンドタウン北秋田市」に登録されています。「モンベルフレンドエリア」とは、モンベルの有料会員組織「モンベルクラブ」の会員に対し地域の情報を発信する一方、地域を訪れた会員に対して優待特典を提供する地域です。北秋田市もホームページや会報誌で、全国約114万人のモンベルクラブ会員に対して情報発信を行い、市内9施設でモンベルクラブ会員に優待特典を提供しています(2024年3月現在)。

自然体験型の観光コンテンツ創出に関する事業においても、北秋田市とモンベルは連携してアウトドアモニターツアーやアウトドアイベントを実施しています。



・北秋田市と株式会社モンベルの包括連携協定締結式の様子



・森吉阿仁スキー場(モンベルフレンドエリア内提携施設)



・森吉山自然体験型イベント実証実験(モニターツアー)

1.4 グランドデザインの対象範囲

アウトドアグランドデザインは、北秋田市全域を対象とし本市が秋田県北部の交通の要衝となっていることを踏まえ、周辺地域との広域連携も視野に入れます。



図. グランドデザインの対象範囲

第2章 北秋田市におけるアウトドアツーリズムの現状と課題

2.1 地域資源の概要と観光の現況

(1) 地域資源の概要

北秋田市は秋田県内で2番目に広い面積(1152 km²)を持ち、秋田県全体の面積の約10%を占めます。

市の北部は市街地と農地が広がる平野部となっており、JR・秋田内陸線の鷹巣駅や大館能代空港があり、国道7号、285号も交わるため、市の中心部であるとともに秋田県北部の交通の要衝にもなっています。

また、大太鼓の館や伊勢堂岱遺跡といった北秋田市の代表的な文化資源も市の北部にあり、広大な敷地を持つ北欧の杜公園も、市の中心部から近い場所に整備されています。

市の南部は森吉山と阿仁川を中心にした自然豊かな地域です。森吉山は高山植物の宝庫として有名で、多くの登山者が訪れます。山頂付近までゴンドラでアクセスできるため、紅葉や樹氷の鑑賞を目的にした観光客やスキー客も多く訪れます。山麓には、希少な動物が生息する原生林や多数の瀑布、湖が点在し、自然体験のフィールドとして人気です。

阿仁川流域はマタギ文化発祥の地として知られ、マタギ文化に触れられる観光施設が点在しており、阿仁川沿いを走る秋田内陸線は、美しい風景を楽しめるローカル線として人気です。

○北秋田市の主な自然資源

◀山地・森林▶ 森吉山、森吉山麓高原

◀川・滝▶ 阿仁川、打当川、米代川、桃洞溪谷、小又峡(太平湖)、安の滝

◀湖▶ 四季美湖

◀公園▶ 北欧の杜公園

○北秋田市の主な文化資源

◀遺跡▶ 伊勢堂岱遺跡(伊勢堂岱縄文館)

◀文化施設▶ 大太鼓の館、マタギ資料館、阿仁異人館・伝承館、くまぐま園、浜辺の歌音楽館

◀芸能・工芸▶ 根子番楽、綴子神社例大祭、秋田八丈(織物)、マタギナガサ(刃物)、秋田杉の桶樽

◀交通▶ 秋田内陸線、大館能代空港



・伊勢堂岱遺跡



・大太鼓の館



・秋田内陸線

(2) 観光の現況

2022年の北秋田市の観光地点等の入込合計客数は、約78万人となっています。集計地点場所の変化もあり単純比較はできませんが、入込合計客数の過去10年のピークは2016年となっており、2017年以降は減少傾向にあります。

国道7号沿いに立地し、物産館や資料館を併設する「道の駅たかのす」が本市の観光の拠点となっています。しかし、2016年に日本海沿岸東北自動車道(無料区間)が北秋田市内まで延伸され、国道7号の交通量が減少した影響もあり、2017年以降の観光客の入込数は減少傾向です。2020年には高速道路の無料区間が市をほぼ横断する形となり、今後の観光動態にも影響があると予想されます。

一方で森吉山山麓エリアの玄関口に位置する「四季美館」や広大な自然公園である「北欧の杜公園」の入込数は増加傾向にあります。これらの施設は、高速道路の延伸による市外からのアクセスの改善や、第1章で述べた自然体験型の観光の人気の高まりが入込数の増加に繋がっていると考えられます。

インバウンドについては、コロナ禍前の2019年まで増加傾向でした。感染症拡大に伴う入国制限が解除されて以降、森吉山での樹氷鑑賞や秋田内陸線への乗車などを中心に再び増加傾向となっています。

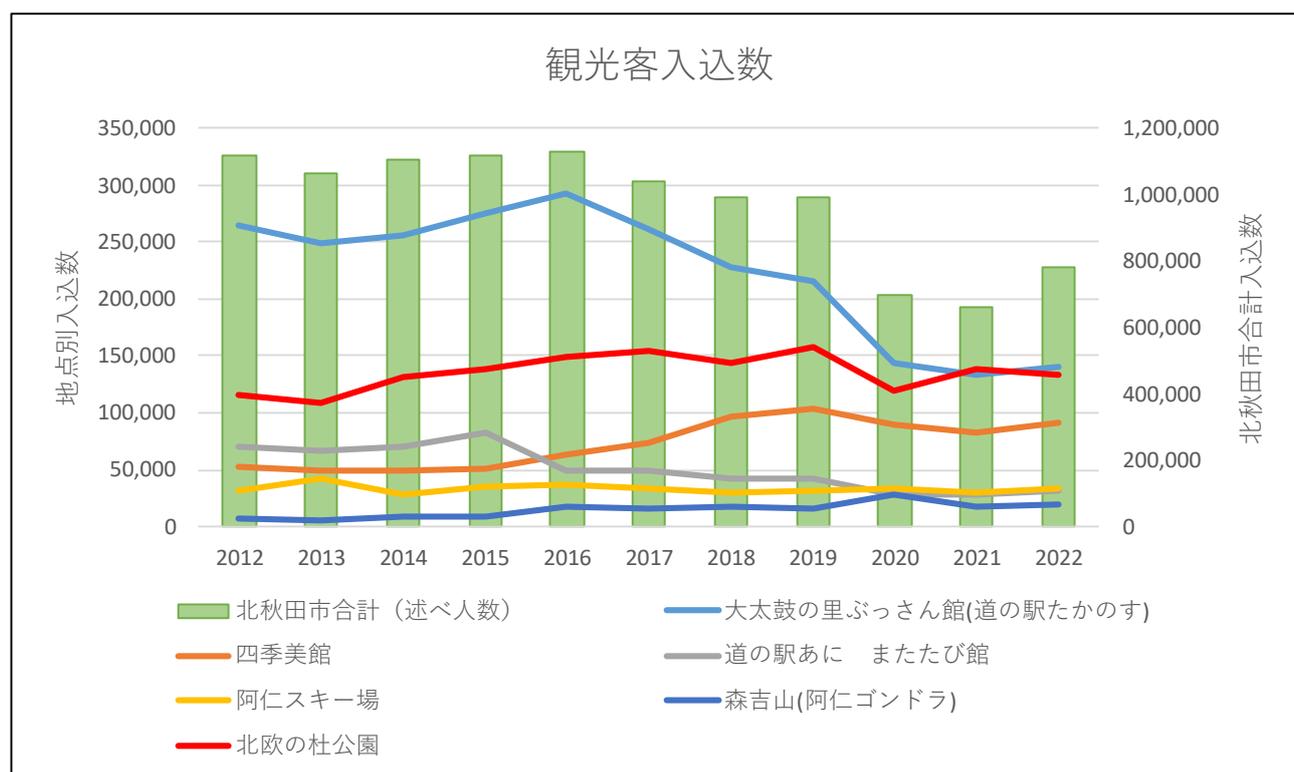


図.北秋田市の観光地点入込数 (出典：秋田県観光統計)

2.2 自然資源の現状と課題

(1) 自然資源の概要

北秋田市内の自然資源の概要と課題を以下にまとめます。

《北秋田市の主な自然資源》

自然資源	アクティビティ	概要	課題
①森吉山	トレッキング スノーシュー	標高 1,454m の独立峰。高山植物、紅葉、樹氷と四季を通して見所が多い。8 合目までゴンドラが運行している。	・情報の整理、発信 ・ガイド体制の整備 ・拠点施設の整備
②森吉山麓高原	トレッキング キャンプ	森吉山東麓の原生林に囲まれた高原。自然体験施設などが整備されている。	・自然体験のコンテンツづくり
③桃洞溪谷	トレッキング	景観が特徴的な森吉山山麓の溪谷。溪谷沿いに登山道が整備されている。	・ガイドイベントの造成 ・情報の発信
④小又峡 (太平湖)	トレッキング	森吉山北麓のダム湖とそこに流れ込む溪谷。溪谷沿いに登山道が整備されている。	・情報の発信
⑤四季美湖	パドルスポーツ	太平湖の下流にあるダム湖。ダム周辺には資料館や公園が整備されている。	・ガイドイベントの造成 ・情報の発信
⑥安の滝 (中ノ又溪谷)	トレッキング	森吉山南麓にある落差 90m の滝。滝まで登山道が整備されている	・ガイドイベントの造成 ・情報の発信
⑦阿仁川・ 打当川流域	サイクリング	阿仁川・打当川沿いの道路はサイクリングに適した環境となっている。	・サイクリスト向けの環境整備 ・情報の発信
⑧米代川	パドルスポーツ	秋田県北部を横断する 1 級河川。北秋田市内の北部を横断している。	・護岸環境の整備(カヌーポート、艇庫)
⑨北欧の杜公園	スノーシュー キャンプ	広大な面積を持つ公園。公園内にはキャンプ場などが整備されている。	・アウトドア・アクティビティへの活用 ・レンタル用品の整備

《アウトドア観光の拠点施設》

空港・鉄道駅：大館能代空港(羽田空港便)、鷹巣駅(JR・秋田内陸線)、阿仁合駅(秋田内陸線)

道の駅・観光施設：道の駅たかのす、道の駅大館能代空港、道の駅あに、四季美館

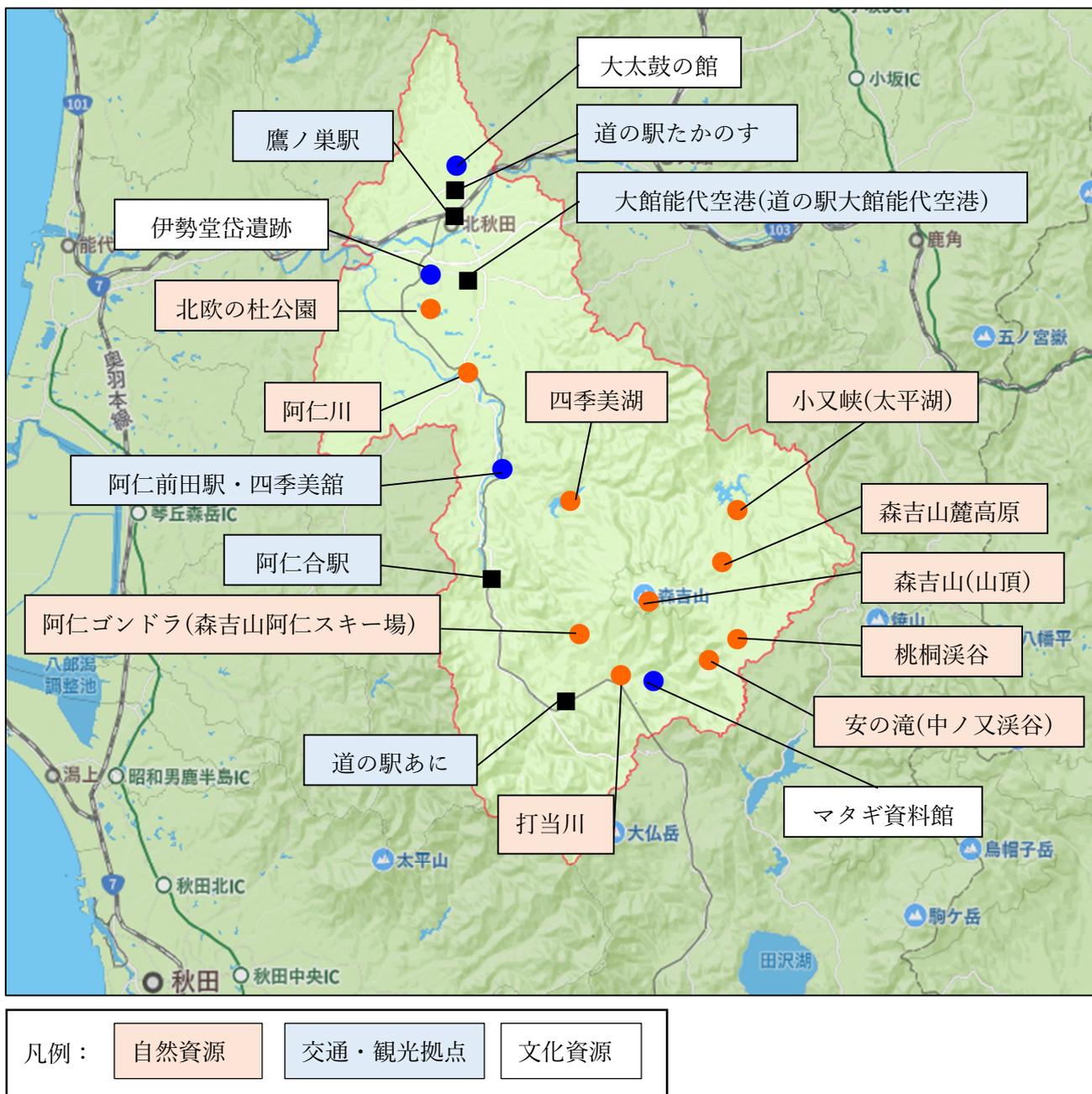


図. 北秋田市の自然資源マップ



・森吉山(トレッキング)



・打当川流域(サイクリング)



・四季美湖(パドルスポーツ)

(2) 自然資源別の現状と課題

①森吉山

【現状】

≪概要≫

森吉山は北秋田市の南部にそびえる標高 1,454m の複式火山で主峰・向岳の周囲を標高 1,000m 以上の外輪山数座が囲んでいます。なだらかな山容が特徴的で山塊は約 20km 四方に広がります。

植生は山腹はブナ林、標高 1,000m から山頂部まではアオモリトドマツの原生林が広がっています。初夏から秋にかけては湿原に高山植物が咲き誇り、「花の百名山(NHK、山と溪谷選)」にも選ばれています。冬は山頂部のアオモリトドマツが氷結し、日本有数の樹氷群となります。

北秋田市の市街地からも山容を望むことができるため、古くから人々の信仰を集め、現在も地域のシンボルとなっています。また山頂からは鳥海山、秋田駒ヶ岳、白神山地、岩木山、岩手山、男鹿半島など、北東北の山々を一望できます。

標高 540m から標高 1,160m までは、通年ゴンドラが運行しており、観光客も気軽に高山植物や樹氷の鑑賞が楽しめます。

≪アウトドア・アクティビティでの活用状況≫

○無雪期

森吉山に登るための登山道は複数あり、目的や体力に合わせて、トレッキングを楽しめる環境です。急な斜面や岩稜帯もないため、登山上級者でなくても登頂が可能です。その中で登山者に多く利用されているのが、ブナ帯コース、こめつがコース、ヒバクラコースの3つのルートです。

ブナ帯コースは森吉山南部の阿仁地域から山頂を目指すルートで、アクセスが良く山頂までの所要時間も短いため、最も多くの登山者に利用されています。標高 800m 付近の登山口から登ることもできますが、ゴンドラを利用して標高 1,160m のゴンドラ山頂駅から登る登山者が多いです。ゴンドラ利用の場合は約 1 時間 45 分、登山口からでも約 2 時間 30 分で山頂に立つことができます。アクセスは、鷹巣駅や大館能代空港のある市の中心部からゴンドラ山麓駅までは車で約 1 時間かかります。秋田内陸線の阿仁合駅から乗合タクシーも運行されており、駅から約 20 分でゴンドラ山麓駅にアクセスできます。

こめつがコースは、森吉山北西部からブナやコメツガの樹林帯を抜けて山頂を目指すルートです。比較的傾斜が緩やかで途中にトイレを備えた避難小屋もあるため、登山初級者でも登りやすいルートです。また、こめつがコース登山口から未舗装路を約 2km 行くと、松倉コースの登山口があります。松倉コースも樹林帯を歩くコースで、標高 1260m 付近でこめつがコースに合流します。両コースとも山頂まで約 3 時間 30 分かかります。アクセスは市の中心部から車で約 1 時間 15 分かかります。秋田内陸線の阿仁前田駅から乗合タクシーも運行されており、駅から約 30 分で登山口にアクセスできます。

ヒバクラコースは、森吉山東部の奥森吉エリアから外輪山の一つヒバクラ岳を經由して山頂を目指すルートです。ルート上のヒバクラ湿原や山人平は森吉山の中でも特に高山植物が豊富で、花の季節には多くの登山者が利用するルートです。登山口から山頂までは約 3 時間 30 分かかります。アクセスは市の中心部から約 1 時間 30 分です。秋田内陸線の阿仁前田駅から乗合タクシーも運行されており、駅か

ら約1時間で登山口にアクセスできます。

この他に中村コースや黒石川コースもありますが、距離が長く登山上級者向けのルートです。

○積雪期

積雪期もゴンドラを利用した登山(スノーシューハイキング)やバックカントリースキーが盛んです。

ゴンドラ山頂駅から森吉山山頂までは傾斜が非常に穏やかで、滑落の危険性が高い箇所はありません。装備もピッケルや12本爪のアイゼンではなく、ストックとスノーシューで登頂が可能です。山頂までの所要時間も約2時間で、雪山登山としての難易度は高くありません。

また、山頂駅付近は樹氷鑑賞地として、1周約20分の周回ルートが整備されています。ストックやスノーシューの貸し出しも行っているため、登山装備がない観光客も樹氷観察が楽しめるようになっています。森吉山はバックカントリースキー(スノーボード)の適地としても知られており、山頂から山麓にかけて様々な斜面が滑られています。

【課題】

○フィールド情報の整理と発信

○ガイド体制の整備

○アウトドア・アクティビティの拠点づくり

森吉山の多様な魅力の発信が課題です。森吉山には、高山植物や樹氷といった特徴的な見どころが多くあります。そして、それらを幅広い登山者が楽しめるため、トレッキングのフィールドとして非常に優れた環境です。しかし、森吉山には「日本百名山」、「秋田県最高峰」といった訴求力のある肩書きがなく、近隣に有名温泉地などありません。そのため森吉山の知名度は高いとは言えず、その多様な魅力が十分には認知されていないのが現状です。

ガイド体制の整備も課題の一つです。現在も森吉山のトレッキングガイドを行っている団体はありますが、高齢化も進んでおり、需要に対して人材が不足しています。またガイドイベントの情報発信も十分に行えていません。森吉山は貴重や動植物や地域固有の文化が豊富で、それらを案内できるガイドへの需要は大きいですが、現状ではその需要に十分には応えられていません。

また、アウトドア・アクティビティの拠点が少ないことも課題です。アウトドア・アクティビティに関する用品やサービス、情報が集まる拠点施設があることで、旅行者や地域住民はより快適に多様なアクティビティを楽しめるとともに、拠点施設の存在がアウトドアフィールドとしての認知度向上にも繋がります。しかし現在、北秋田市にはアウトドア・アクティビティを楽しむ来訪者や地域住民向けの施設は多くありません。



・森吉山山頂部



・山頂からの眺望



・ゴンドラ山頂駅



・こめつがコース登山道



・山人平(ヒバクラコース)



・積雪期の森吉山

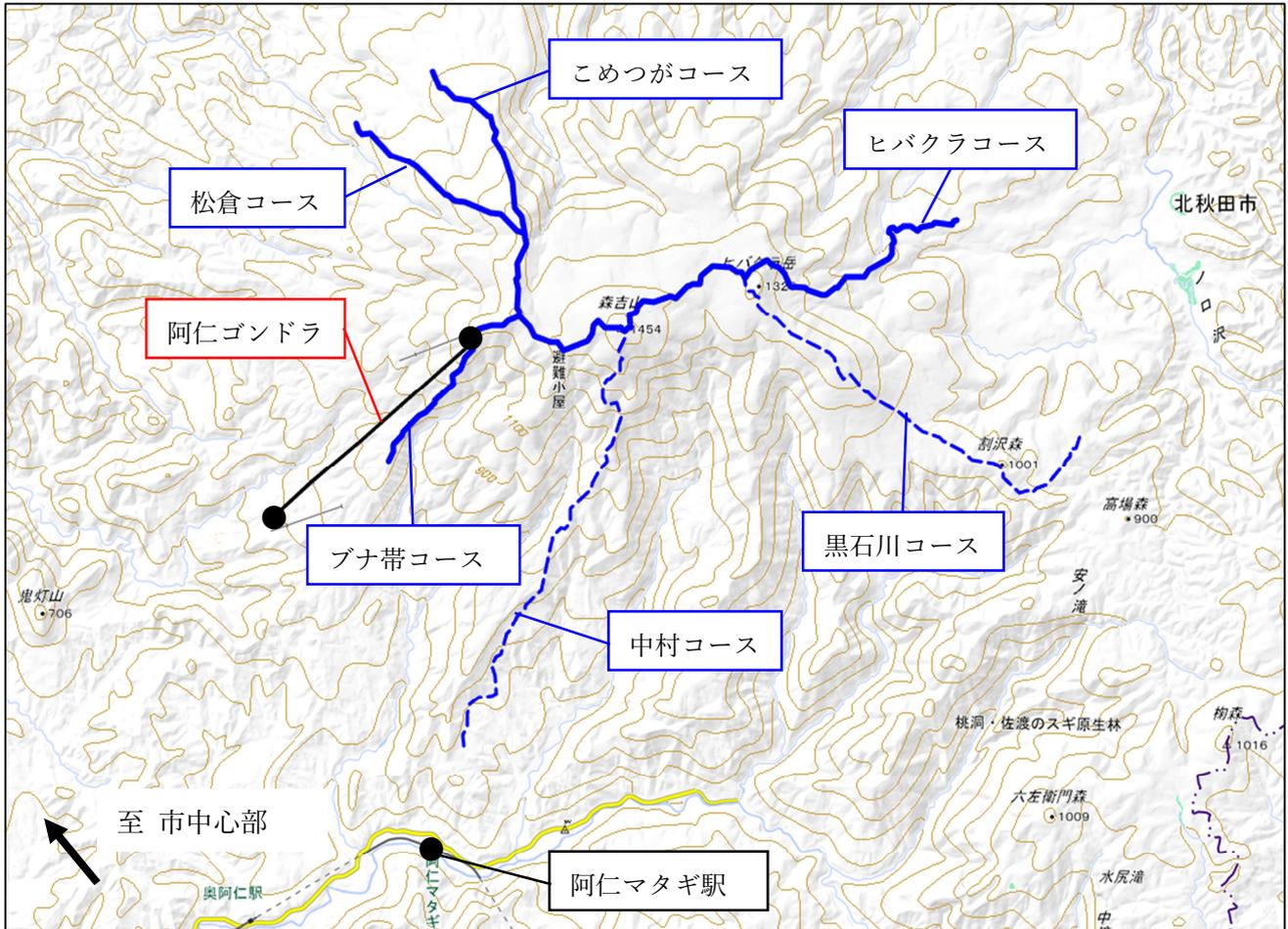


図. 森吉山の登山ルート

②森吉山麓高原(奥森吉青少年野外活動基地、森吉山野生鳥獣センター)

【現状】

《概要》

森吉山の東麓に位置する標高 620～820m の起伏に富んだ高原で、周囲はブナやスギの原生林に囲まれています。高原内には、森吉山国設鳥獣保護区特別保護地区の動植物を紹介する森吉山野生鳥獣センターや野外教育の拠点施設である奥森吉青少年野外活動基地(青少年野外活動センター、親子キャンプ場)が整備されています。

《アウトドア・アクティビティでの活用状況》

ヒバクラコースを利用した森吉山トレッキングや桃洞溪谷の散策の拠点にもなっています。また、奥森吉青少年野外活動基地のキャンプ場では一般利用者也キャンプが可能です(無料)。

【課題】

○自然体験のコンテンツづくり

森吉山麓高原は貴重な動植物が観察できる自然環境の中に、設備が整った施設が整備されていますが、十分には活用されていません。自然体験のフィールドとして優れた環境を生かしたアクティビティの提案やイベントの開発が必要だと考えます。

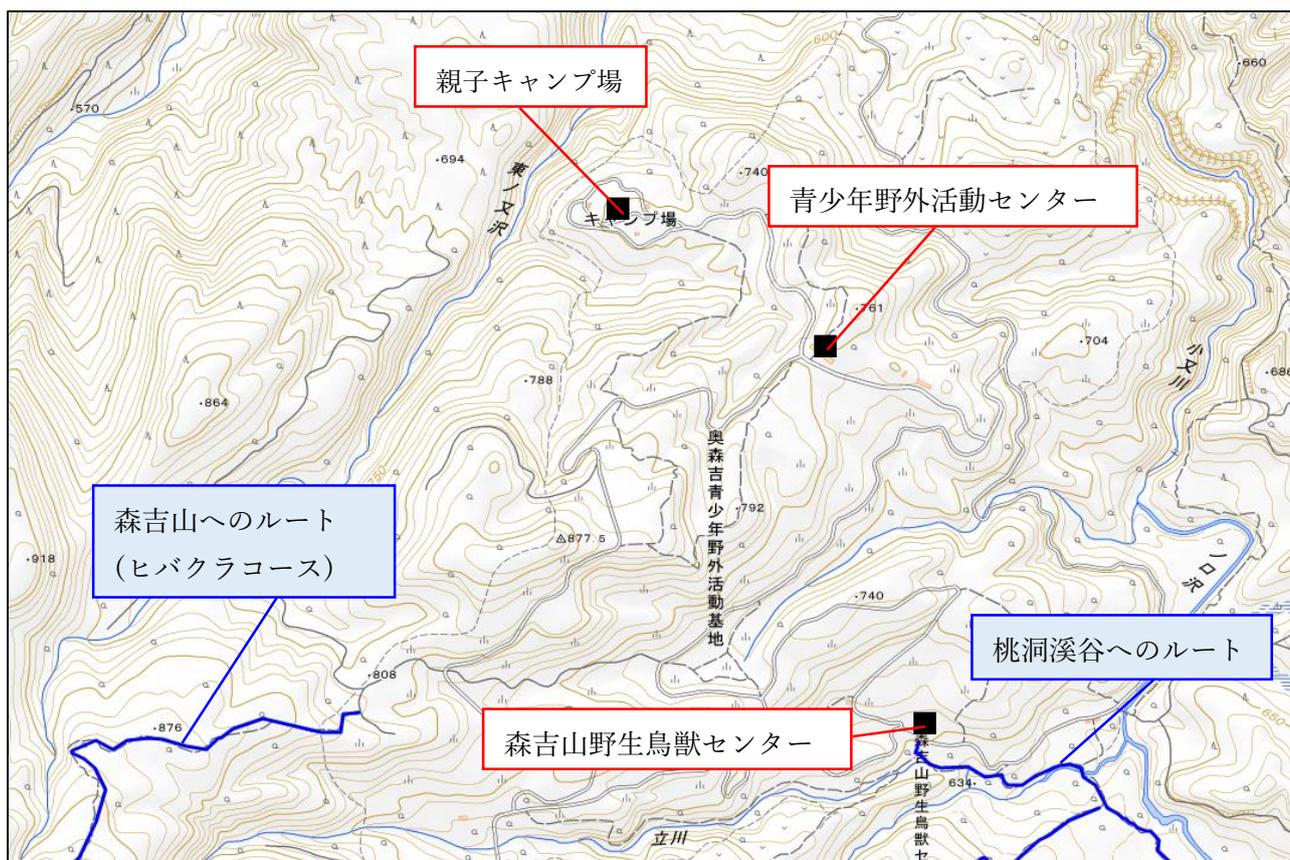


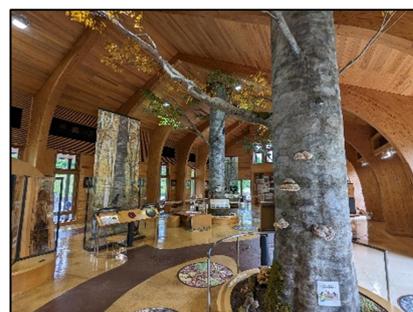
図. 森吉山麓高原



・青少年野外活動センター



親子キャンプ場



・森吉山野生鳥獣センター

③桃洞溪谷

【現状】

≪概要≫

太平湖に流れ込むノロ川源流部の溪谷で、溪谷周辺のブナの原生林はクマゲラをはじめ希少な動植物の生息地となっています。溪谷内では大小の甌穴と滝が点在する美しい景観を楽しめます。登山道の終点となる桃洞滝は、特徴的な容姿から安産、子宝、縁結の滝として親しまれています。

≪アウトドア・アクティビティでの活用状況≫

野生鳥獣センターから桃洞滝まで約4.2kmの歩きやすい登山道が整備されており、ブナの原生林の中や溪谷沿いのトレッキングを楽しめます。所要時間は片道約2時間です。ノロ川源流部には、仙北市の玉川温泉に抜ける赤水溪谷もありますが、危険箇所も多く上級者向けのルートです。

【課題】

○フィールドを活用したガイドイベントなどの造成

○フィールド情報の発信

奥深く、美しい自然の中を比較的安全に歩ける非常に優れたルートですが、ガイドイベントなどが少なく、魅力を十分に伝えられていません。フィールド情報の発信も十分ではありません。

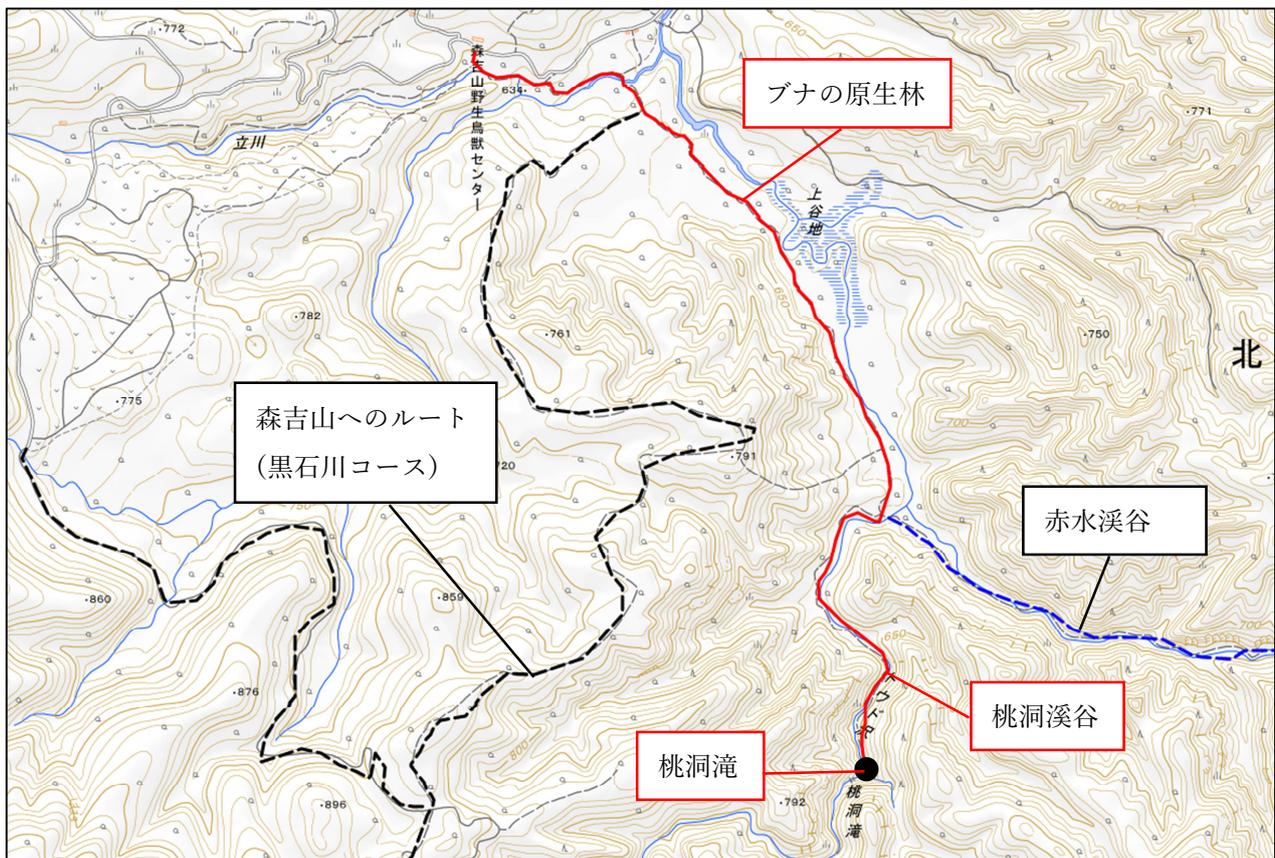


図. 桃洞溪谷ルート



・ブナの原生林



・溪谷沿いの登山道



・桃洞滝

④小又峡(太平湖)

【現状】

《概要》

太平湖は森吉山北麓に位置する面積 195ha のダム湖です。

小又峡は太平湖南岸に流れ込む峡谷で、大小 100 余りの瀑布、甌穴、深淵から形成されています。太平湖では、自動車アクセスできる北岸から南岸の小又峡を往復する遊覧船が定期運航しています(6月～10月運行。片道約 20 分)。小又峡へのアクセスは遊覧船の利用か森吉山麓高原からの徒歩に限られます。

《アウトドア・アクティビティでの活用状況》

遊覧船の発着所となっている湖岸から、高さ約 20m の三階滝まで約 1.8km の登山道が整備されています。登山道は歩きやすく整備されていますが、切り立った峡谷内のため雨天時には急な増水に注意する必要があります。湖岸から三階滝までの所用時間は片道約 50 分です。

小又峡から森吉山麓高原まで歩くこともできますが、危険箇所が多く、上級者向けのルートです。

【課題】

○フィールドを活用したガイドイベントなどの造成

○フィールド情報の発信

桃洞溪谷同様に、奥深く、美しい自然の中を比較的安全に歩ける非常に優れたルートですが、ガイドイベントなどが少なく、魅力を十分に伝えられていません。フィールド情報の発信も十分ではありません。

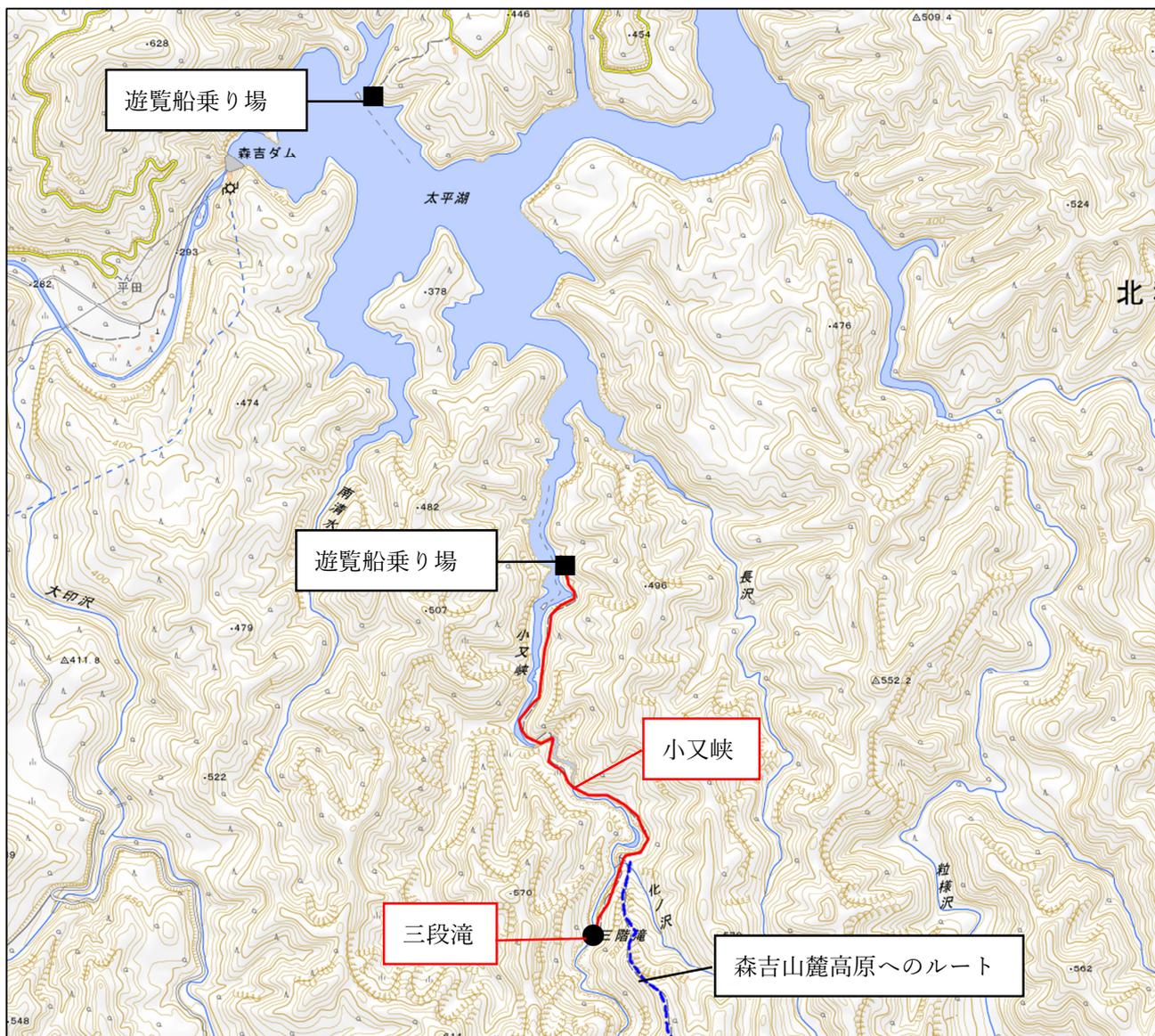


図. 小又峡ルート



・遊覧船乗り場



・峡谷内の登山道



・三段滝

⑤四季美湖

【現状】

≪概要≫

太平湖の下流に位置する面積 320ha のダム湖。ダムの周囲には資料館や展望台を備える森吉山ダム広報館や四季美湖畔公園が整備されています。

≪アウトドア・アクティビティでの活用状況≫

カヤックや SUP の乗降場所が整備されていて、イベント時を中心に地元グループがガイドを行う体験会も実施されています。また、2022 年よりモンベルグループと連携して行っているガイド人材育成、イベント造成の取り組みの中でも四季美湖でのパドルスポーツ体験イベントを実施しています。

【課題】

○フィールドを活用したガイドイベントなどの造成

○フィールド情報の発信

パドルスポーツのフィールドとして適した環境ですが、現在は認知度が低い状況です。情報発信やイベントの実施などにより認知度を向上させる取り組みが必要と考えられます。

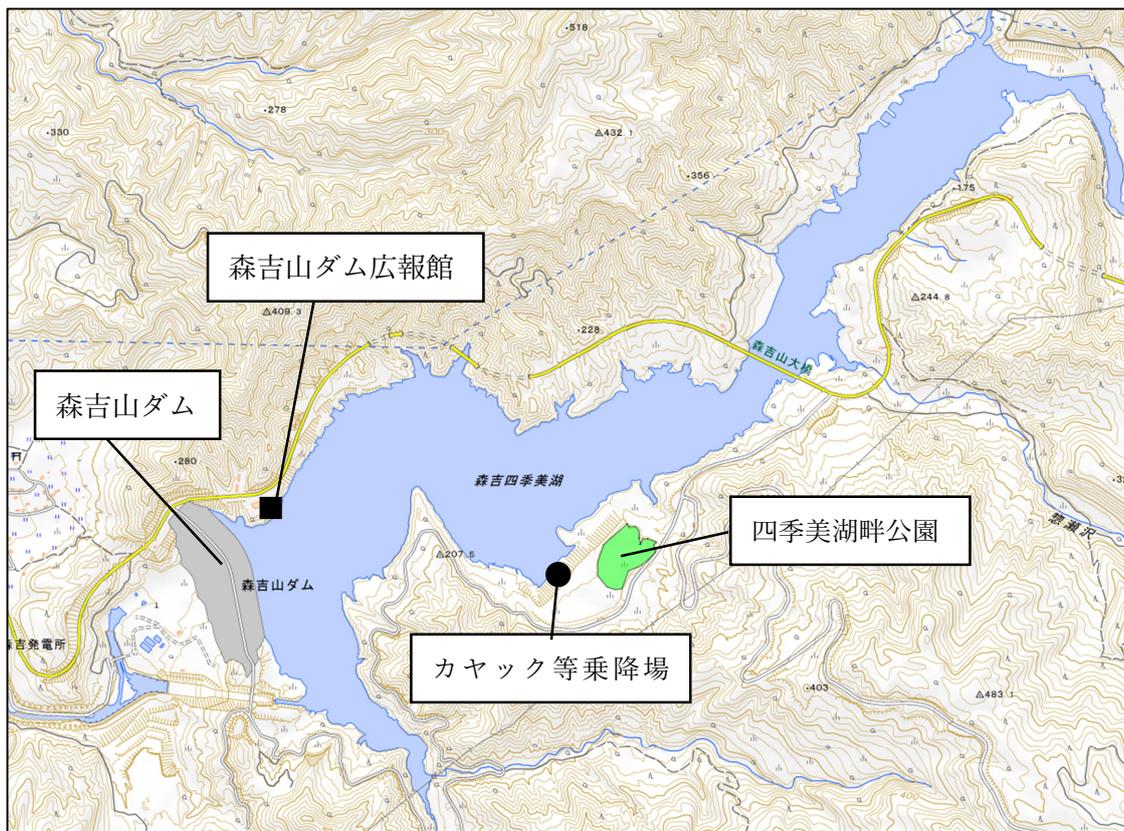


図. 四季美湖



・四季美湖



・四季美湖畔公園



・カヤック等乗降場所

⑥安の滝(中ノ又溪谷)

【現状】

≪概要≫

森吉山南麓・打当川流域の中ノ又溪谷上流部にある滝。落差 90m の二段構造の美しい滝で、日本屈指の名瀑と評価されています。また同じ打当川流域の立又溪谷には落差 108m を誇る幸兵衛滝もありますが、現在は土砂崩れの影響でアクセス不可となっています。

≪アウトドア・アクティビティでの活用状況≫

駐車場から溪谷沿いに片道 1.5km の登山道が整備されていて、片道約 50 分で滝まで歩くことができます。登山道は一部切り立った斜面を通過する場所やアップダウンのある場所もありますが、概ね歩きやすく整備されています。駐車場までの道路は約 5km の簡易舗装道路(一部未舗装)となっています。

【課題】

○フィールドを活用したガイドイベントなどの造成

○フィールド情報の発信

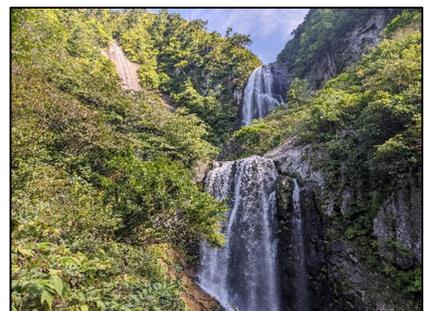
現在、安の滝に関する情報発信は景勝地としての訴求がメインとなっています。しかし、一部未舗装の簡易舗装道路を経由してアクセスする美しい溪谷沿いの登山道は、アウトドアのフィールドとしても魅力があります。したがって、美しい溪谷と滝が集まるエリアの特徴を生かしたアウトドアコンテンツをつくり、イベントや情報発信を行っていく必要があると考えます。



・駐車場までの未舗装路



・溪谷内の登山道



・安の滝

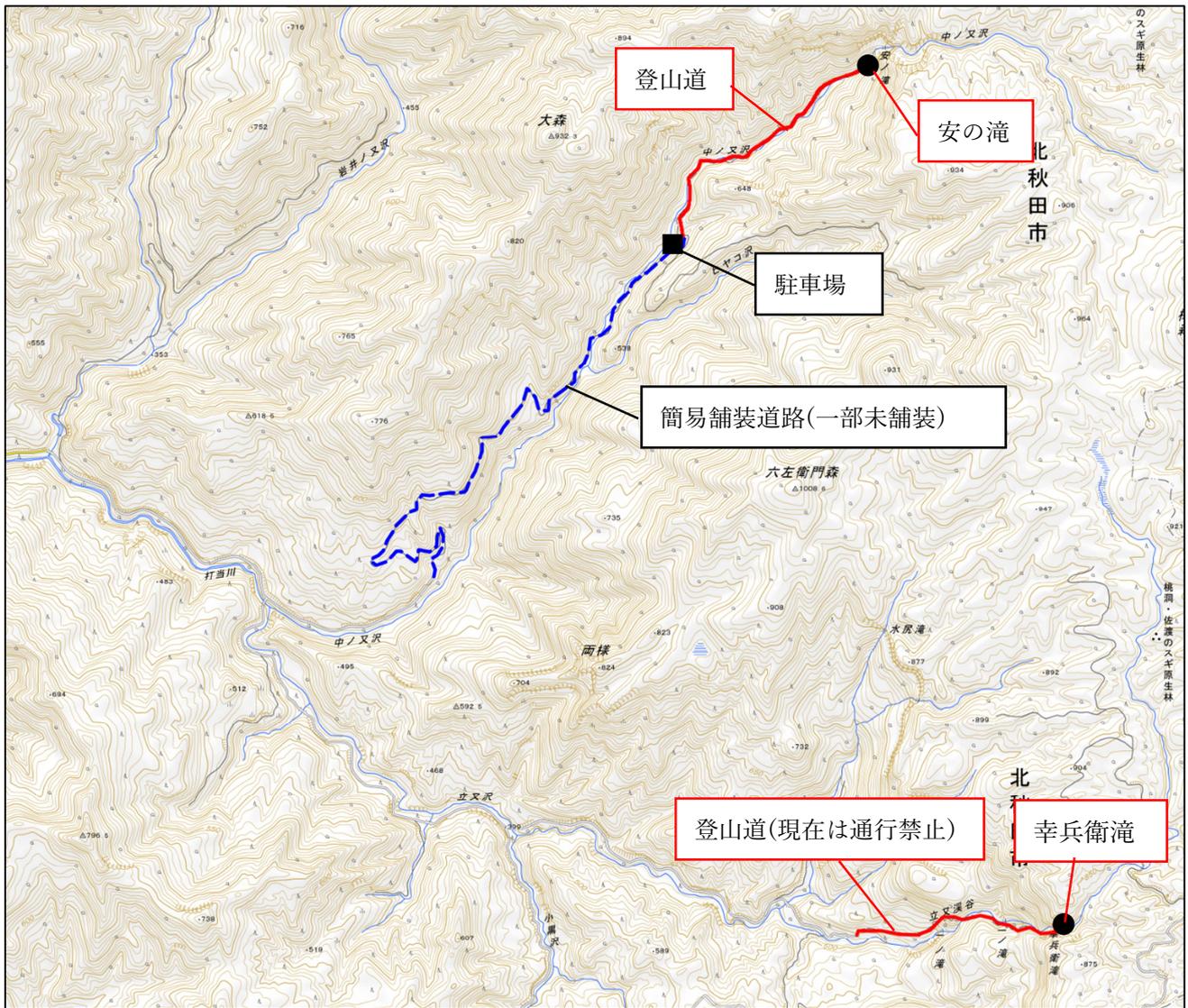


図. 打当川流域(安の滝、幸兵衛滝)

⑦阿仁川・打当川流域サイクリングルート(国道 105 号、県道 308 号、秋田内陸線)

【現状】

〈概要〉

阿仁川・打当川流域を通る国道 105 号と県道 308 号は、景観が美しく、高低差も適度なためサイクリングに適しています。国道 105 号、県道 308 号沿いには道の駅や観光施設、秋田内陸線の駅が点在しており、サイクリング途中の立ち寄りが可能です。

〈アウトドア・アクティビティでの活用状況〉

秋田内陸線では自転車の輸送や主要駅での自転車の貸出など、サイクリスト向けのサービスを行っています。しかしながら、沿線の道の駅などにはバイクラック等は設置されておらず、サイクリストの積極的な受入れは行っていません。

【課題】

- サイクリング環境の整備
- フィールド情報の発信

現在、北秋田市内では秋田内陸線でサイクリスト向けのサービスを行っていますが、それ以外にサイクリストを想定した設備の整備やサービスの展開は行っていません。サイクリングに適した環境を誘客に繋げるためには、サイクリング環境の整備と情報の発信が必要だと考えられます。

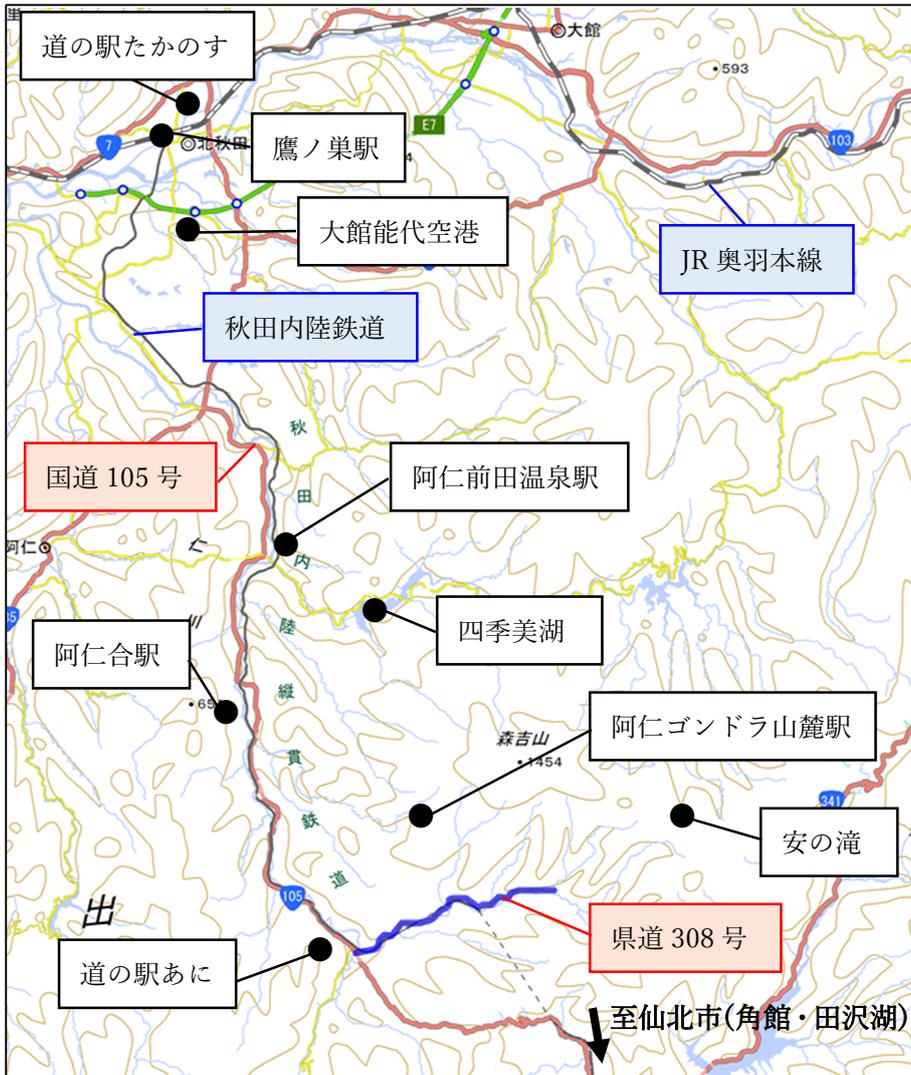


図. 北秋田市のサイクリング環境



・ 県道 308 号



・ ゴンドラ山麓駅付近



・ 阿仁合駅

⑧米代川

【現状】

《概要》

秋田、青森、岩手県境にまたがる中岳を源流とする河川。秋田県北部を横断し、日本海に流れ込みます。幹川流路延長は136kmです。

北秋田市内では北部の鷹巣盆地内を流れ、能代市との境界付近で支流の阿仁川が合流します。

《アウトドア・アクティビティでの活用状況》

北秋田市内では川岸にカヤックやボートの乗降場所や親水公園などが整備されていません。農道から水辺までアクセスすることはできますが、パドルスポーツのフィールドとして積極的に利用されていません。

北秋田市中心部から10kmほど下流の「道の駅ふたつ(能代市)」にはカヌーの乗降場所が整備されており、ガイド団体が米代川でのカヌーツーリングイベントを実施しています。

【課題】

○護岸環境の整備(カヌーポート・艇庫)

市の中心部を流れる米代川は北秋田市の代表的な自然資源で、パドルスポーツのフィールドとしても活用可能です。カヤックなどに乗り降りできるカヌーポートや艇庫の整備により、米代川での自然体験型の観光コンテンツ実施が可能になると考えます。また、米代川の上流・下流に位置する周辺自治体の連携も重要となります。

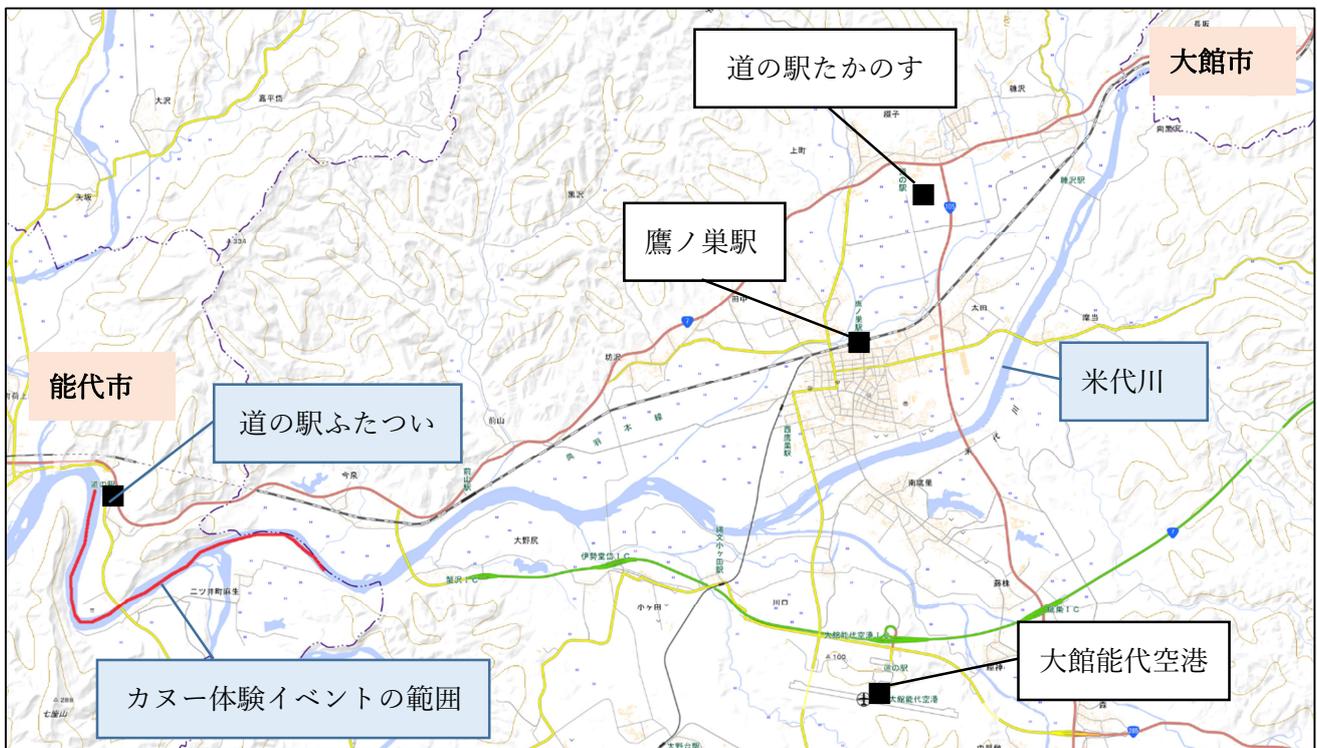


図. 米代川



・北秋田市内の米代側



・道の駅ふたつ



・道の駅ふたつ前の乗降場所

⑨北欧の杜公園

【現状】

《概要》

市の中心部から車で10分ほどの場所にある公園。総面積2,200haはあり、広大な芝生広場が大きな特徴となっています。公園内にはパークゴルフ場やキャンプ場が整備されています。

《アウトドア・アクティビティでの活用状況》

公園内のキャンプ場は、市街地に近い立地ながら自然豊かな環境なので県内でも人気のキャンプ場となっています。また自転車やクロスカントリースキー、スノーシューなどの貸し出しも行っています。

【課題】

○アウトドア・アクティビティやキャンプへの活用

○レンタル用品の配備

気軽に自然に触れられる優れた環境ですが、自然体験イベント等で十分には活用できていない状況です。またアウトドア・アクティビティの初心者の利用が多い施設ながら、レンタル用のアウトドア用品の配備が十分ではありません。



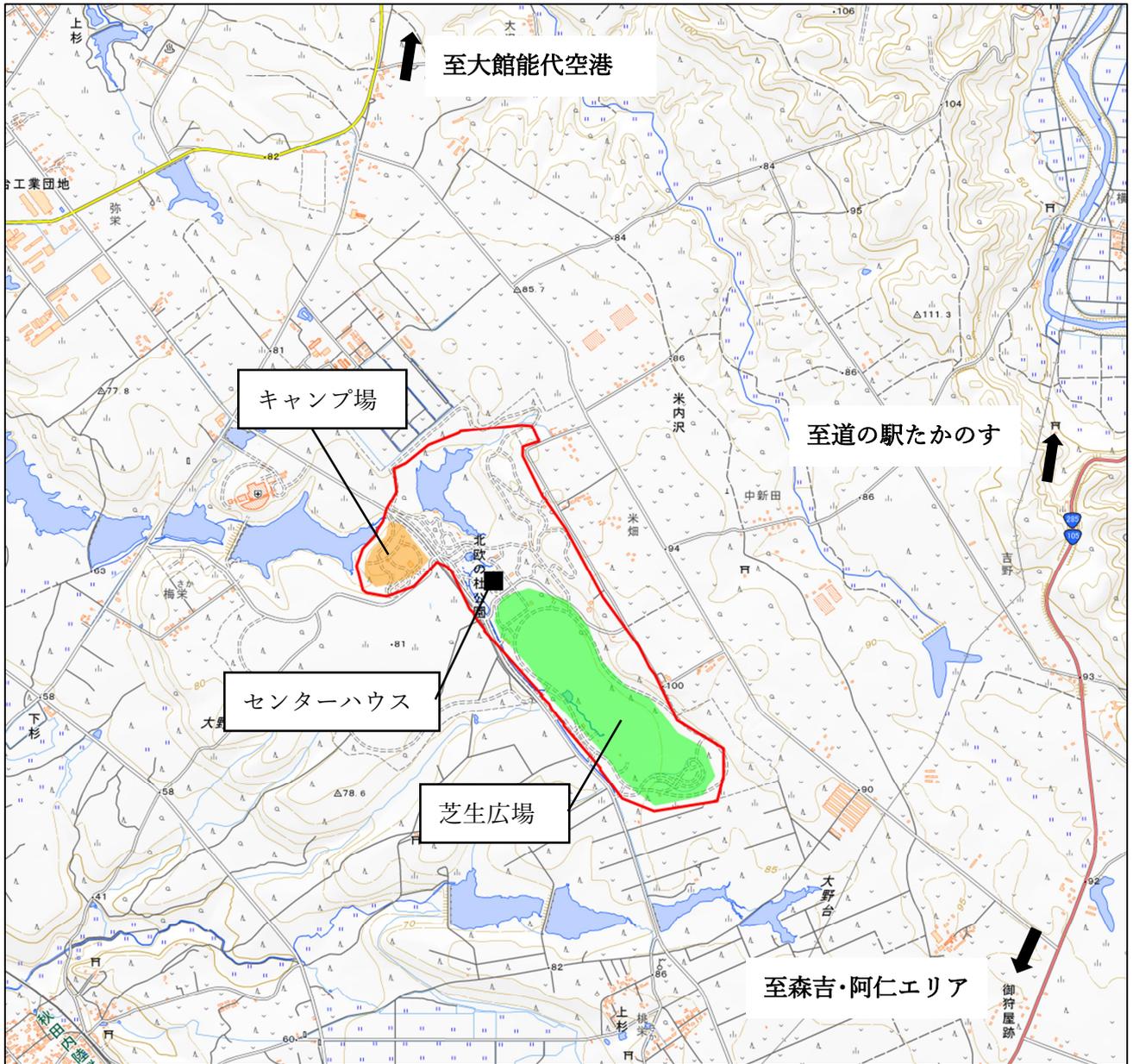
・芝生広場



・キャンプサイト



・センターハウス



2.3 北秋田市におけるアウトドアツーリズムの課題の整理

北秋田市の観光や自然資源の現状と課題を踏まえ、アウトドア・アクティビティを通じたアウトドアツーリズム推進に向けた課題を整理します。

課題① アウトドア・アクティビティを想定した環境整備

これまで述べてきた通り、北秋田市には自然資源が非常に豊富です。アウトドア・アクティビティのフィールドとしても魅力的で、森吉山でのトレッキングをはじめ、森吉山山麓の原生林や溪谷での自然散策、四季美湖でのパドルスポーツ、阿仁川・打当川流域のサイクリング、積雪期のスノーハイキングなど、多様なアクティビティを北秋田市で楽しむことが可能です。

しかし、旅行者や地域住民がアウトドア・アクティビティを楽しむための環境整備は十分ではありません。特に森吉山のトレッキング以外のアクティビティについては、アクティビティを行う人向けの設備の整備や貸出用アウトドア用品の配備といった環境整備が十分でない部分が多くあります。

北秋田市の多様で魅力的な自然環境をアウトドア・アクティビティのフィールドとして積極的に活用していくための環境整備が求められます。

課題② アウトドアツーリズムの受け入れ体制の整備

アウトドア・アクティビティを想定したマップの配布やガイドイベントの提供など、アウトドア・アクティビティを目的とした旅行者の受け入れ体制も十分には整備されていません。結果として、自然資源の豊富さに対して、アウトドア・アクティビティを楽しむ人は少ない状況です。

北秋田市でアウトドアツーリズムを推進するには、豊富な自然資源を旅行者に十分に楽しんでもらうための受け入れ体制の整備が必要です。

課題③ アウトドアツーリズムの拠点となる施設の整備

前述の通り、北秋田市には魅力的な自然資源が豊富にあり、楽しめるアウトドア・アクティビティも豊富です。しかし、アウトドア・アクティビティに関する用品やサービス、情報が集積し、旅行者や地域住民がアクティビティの前後に立ち寄る拠点施設がありません。

そのような拠点施設にはアウトドア・アクティビティを楽しむ人々の利便性を高め、アウトドアツーリズムの満足度を高める効果が期待できます。本市は秋田県北部の交通の要衝であるため、アウトドア・アクティビティの拠点施設は、北秋田市のみならず、秋田県北部のアウトドアツーリズムの拠点として機能することも期待できます。

以上のことから、北秋田でのアウトドアツーリズムを推進するためには、エリア一帯のアウトドアツーリズムの拠点となる施設の整備が必要だと考えられます。

課題④ 広域連携によるアウトドアツーリズムの推進

北秋田市におけるアウトドアツーリズムの推進にあたっては、周辺地域も含めた広域連携も課題となります。

本市は非常に広い面積の中に特徴が異なる多様な自然資源が点在しています。したがって、アウトドアツーリズムを推進するにあたっては、エリア一体となった環境整備や情報発信が重要となります。各資源が連携した環境整備により、旅行者や地域住民はより快適に多様な自然資源を楽しめるようになります。また情報発信を効果的に行うためにも、広域での連携が重要です。

そして前述の通り、本市には秋田県北部の空路での玄関口となる大館能代空港があるほか、幹線道路や鉄道路線も交わる交通の要衝です。アウトドアツーリズムの推進にあっても、男鹿半島、田沢湖、秋田駒ヶ岳、真昼山地、八幡平、十和田湖、奥入瀬溪流、白神山地といった秋田県北部及び青森県南部や岩手県北西部のアウトドアフィールドとの連携により、旅行者に対し、より魅力的なアウトドアツーリズムのプランを提案することが可能となります。

課題の一つとして挙げたアウトドアツーリズム拠点施設の整備においても、周辺地域との連携に取り組むことで、市内のみならず、秋田県北部のアウトドアツーリズムの拠点施設として機能していくと考えられます。

課題⑤ アウトドアツーリズムに関する情報発信

アウトドアツーリズムの推進にあたっては、効果的な情報の発信も課題となります。

本市には、多様な楽しみ方ができる自然資源が豊富にありますが、情報発信を効果的に行えていない資源も多いです。結果として、魅力的な自然資源の豊富さに対して、アウトドアフィールドとしての認知度が高いとは言えない状況となっています。

アウトドア・アクティビティを楽しむために必要な情報は、一般的な観光情報とは異なります。アウトドアツーリズムを目的とした旅行者を誘客するためには、アウトドア・アクティビティに必要な情報と地域の観光情報を組み合わせた情報の整理と発信が重要です。

また、アウトドアツーリズムに関する情報をアウトドア・アクティビティの愛好家や自然志向の旅行者に向けて効果的に発信することも課題です。本市の自然資源は遠方からのアクセスも悪くないので、全国的な規模での情報発信も必要となります。